

吉田泉殿・自然学セミナー第8回のお知らせ お知らせ第1号  
意識を考える

とき：2010年7月11日、日曜日、1400-1800、懇親会2000ころまで  
ところ：京都大学吉田泉殿

「地球社会の調和ある共存に貢献する」、それが京都大学の掲げる理念です。本セミナーは、「自然そのまると全体」を捉えるなかで、「人間とは何か」という人間の本性についての深い理解をめざしています。吉田泉殿の「掘りごたつと畳」の部屋で、寝そべってくつろぎながら、自由に意見を交換する場です。定員は上限約25名。コンピューターとプロジェクターとスクリーンはあります。それぞれの思いを自由闊達に述べてください。今回は、「意識を考える」をテーマにしました。2つの契機があります。ひとつは日本学術会議の「心の先端研究と心理学専門教育」分科会です。そこで練ってきた「心の先端研究連携拠点(WISH)構築」事業が、このたび文部科学省の最先端研究基盤事業に採択されました。さらに、来年2011年6月9-12日に、京都大学霊長類研究所が主催して、時計台で第15回国際意識科学会(ASSC15)が開催されます。国外200名と国内200名程度の参加が見込まれます。この2つの事業は、いずれも心の先端研究という点で関連しています。なお、終了後に懇親会を用意しています。

1、当日のスケジュールと話題提供者

とくにタイムテーブルは設けません。今回は1400からです。定刻に始めます。最初に短く自己紹介をします。途中で長い休憩と歓談の時間をはさみます。なお、原則として、出席者は必ず懇親会にご参加ください。

司会：松沢哲郎（京大霊長類研究所）

話題提供1：柳田敏雄（大阪大学）お粗末な素子？を駆使して働く脳

話題提供2：川人光男（ATR）神経科学は情報処理のハードサイエンスになりうるか

話題提供3：伊佐正（生理学研究所）ASSC14の参加報告

話題提供4：浅田稔（大阪大学）「ロボットという思想」一脳と知能の謎に挑むー

話題提供5：平田聡（林原類人猿研究センター）チンパンジーの社会的認知

2、討論参加者（順不同）：

吉川左紀子（京大・こころの未来）、伊谷原一（京大・野生動物）、亀田達也（北大）、長谷川寿一（東大）、入来篤史（理化学研究所）、坂上雅道（玉川大）、田中正之（京大・野生動物）、林美里（京大・霊長類）、足立幾磨（京大・霊長類）、伊村知子（京大・霊長類）、服部裕子（京大・霊長類）、平口愛子（シュプリングー東京）、猿山直美（岩波書店）、榊原雅晴（毎日新聞）、尾古俊博（京都新聞）、芦原千晶（中日新聞）、阿形清和（理学）、山極寿一（理学）、梶田真章（法然院）。友永雅己・遅参予定。ほかに参与観察で陪席する学生等数名：早川卓志（理M1）、村松明徳（理M1）、ユリラ（理M1）、植田想（総人4）、栗原洋介（理3）、池田彩夏（文3）、谷口貴昭（農1）、濱口優（1）。

3、当日連絡先 松沢哲郎、携帯：080-2623-3705

吉田泉殿は当日の朝9時から開いています。ご自由にご歓談ください。